

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	・児童一人一人に考えをもたせ、学び合いを通して思考力・判断力・表現力を育てる問題解決型の授業づくりを行う。	中間評価	・校内研究を中心に学び合いを深める指導の研鑽を積んでいる。また、互いの授業を見合う雰囲気をつくっている。	最終評価	・校内研究で行っている意識調査の結果から、自分の考えをもったり、意見を比べたりすることができる回答した児童が増えた。
		・言語や規則を守る環境を整え、教師や児童が ICT 機器を活用できるようにし、授業のユニバーサルデザイン化を図る。		・児童が考えを説明する際に ICT を活用するなどして、どの子にとっても分かりやすい授業づくりをしている。		・ICT 機器を活用した説明の仕方、説明をする際の言葉の指導を継続したことで、学び合う授業の形が定着してきている。
環境作り						

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析 (10月)	課題 (10月)	改善のための取組 (10月)	最終評価 (2月)	
1	国語	<p>学 ひらがなについては、どの児童も書けるようになってきている。カタカナはまだ十分に身に付いていない状況がある。</p> <p>学 大体の場面の様子を読み取ったり、登場人物の心情を考えたりできるようになっている。</p> <p>学 文章を書く力は個々に差がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> カタカナや漢字を正しく書けるようにしていく。 助詞の「は」「へ」、拗音などを正しく書く力を伸ばしていく。 3文程度の文を書けるように指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習プリントなどで学習内容の復習を行い、学習内容が習熟できるように指導していく。 ノートや生活科カードを書く際に、カタカナで書く言葉を確認したり、習った漢字を使ったりすることで文章の中で正しく書くことができるようにしていく。 作文の授業や、振り返りなど文章を書く学習を行い書く力を伸ばす。書き方の定型なども指導していく。 	<p>家庭学習プリントなどで学習の復習を行ったことで、カタカナや漢字、助詞の「は」「へ」などは概ね正しく書けるようになった。まだ苦手とする児童には、プリント等で引き続き指導をする必要がある。また、日々のノート指導や作文指導などで、引き続き習った漢字を使うよう指導を継続していくことで文章の中で正しく書くことができるようにしていく。日々の授業の中で、ワークシートやノートに考えを書けるようになり、文章を書く力は確実に身に付いた。</p>	
	算数	<p>学 足し算の習熟状況はおおむね良好であるが、引き算の習熟状況は個々に差がある。</p> <p>学 文章題の場面を適切に読み取り、その場面に応じて立式するのが難しい児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 引き算をできるように指導する必要がある。 文章題の読み取りができるように指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の宿題で足し算、引き算の計算練習を行い、学校で習熟状況を確認する検定を行う。 問題をつくる学習をする。 朝学習や家庭学習などで反復して行う。 	<p>家庭学習に毎日取り組み、20までの足し算、引き算が暗算でできるようになった。計算カードを使って検定を行い、年度末までに8割以上の児童が合格した。習熟度別少人数指導を行ったことで、一人一人に必要な指導を丁寧にすすめることができた。図・式・言葉を使って分かりやすくノートに表現する力が付いた。</p>	
学年	教科	学習状況の分析 (4月)	課題 (4月)	改善のための取組 (4月)	中間評価・追加する取組 (10月) → 最終評価 (2月)	
2	国語	<p>学 大体の場面の様子を読み取ったり、登場人物の心情を読み取ったりする時に、叙述に即して読む力が十分に身に付いていない状況がある。</p> <p>学 漢字の書き取りでは丁寧に書く習慣が十分に身に付いていない状況があった。「とめ・はね・はらい」を重点的に指導した結果、丁寧に書くことが身に付きつつある。</p> <p>学 語彙力、書字などについては、個人差がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 書かれていることを正しく読み取り、だいたいの内容を理解することに課題がある。 文字を書き順通りに、字形を整えて丁寧に書く習慣が身に付くよう引き続き指導する必要がある。 言葉の意味や漢字について正しく理解できるように指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 会話文や登場人物の行動から気持ちを読み取ったり、文章の構成を考えたりすることによって読む力をつける。 新出漢字の指導の際、正しく書くポイントをおさえる。タブレット端末を活用し、書き順の練習などを行う。家庭学習を継続的に行う。 言葉の意味や漢字の成り立ちについて、問い返しをしながら、その意味を友達同士で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 物語文については心情を読み取る力が付いてきたが、説明する文章について、順序を考えながら、段落を読み取れるように挿絵などを使いながら、指導を行う。 新出の語句や漢字の理解度を上げるため、毎週確認の小テストを行う。タブレット端末を活用し、書き順の指導なども丁寧に行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 新宿区学力定着度調査の結果では、基礎・活用ともに区平均や全国平均より上回っていることから、概ね良好といえる。 「漢字を書く」問題に関しては、区平均や全国平均より下回っている。確実に定着できるように、タブレット端末を活用し繰り返し練習をする必要がある。読み取りについては、正答率が8割を超えており、力が付いてきている。
	算数	<p>学 既習内容の理解に個人差がある。特に、計算力や文章問題において個人差が大きい。</p> <p>学 自分の考えを伝えることに積極的な児童が多い。一方で、自分の考えと友達の考えの共通点・相違点を考える力が十分に身に付いていない状況がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な計算問題には取り組むが、解き方を考えたり、計算の工夫をしたりできるように指導をする必要がある。 友達の考えを聞く際に、何に気を付けて聞けばよいかを考えて聞く力を伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な計算問題を日々の宿題とし、繰り返し反復練習する。タブレット端末も活用し、習熟を図る。 自分の考えを説明したり、友達の意見を聞いたり、共有したりする機会をもつ。その際、聞く視点を提示し、共通点・相違点、数学的な考え方のよさに気付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 九九の着実な定着に向けて、九九検定を行う。 友達の考えを理解しようとするようになってきた。友達と自分の意見を比べて、同じところや違うところに気付くように発問をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 新宿区学力定着度調査の結果では、基礎・活用ともに区平均や全国平均よりも上回っていることから、概ね良好といえる。しかし、「1000までの数」の数直線の問題では、目標値を下回っており、タブレット端末等を活用し、数直線の理解を確実に身に付けさせる必要がある。
3	国語	<p>調 新宿区学力定着度調査の結果では、基礎的な問題においては、目標値を1.4ポイント上回っていた。しかし、応用問題では目標値を3.7ポイント下回った。特に、話し手が知らせたいことを落とさないように聞くこと、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ文章を書くこと、自分の思いや考えが明確になるように文章を書くことで目標値を下回った。</p> <p>学 読書が好きな児童もいるが、自分で本を選んで読むことができない児童もいる。読書量にはばらつきがある。</p> <p>学 漢字の書き取りでは丁寧に書く習慣が十分に身に付いていない状況である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な力は身に付いている。今年度は話を聞き取ることや文章を書くことを重点的に指導していく。 読書量や読書の幅を広げていけるように環境を整えていく。 文字を書き順通りに、字形を整えて丁寧に書く習慣が身に付くように指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝のスピーチを毎日行うとともに、話していた内容を他の児童が簡単にまとめたり、感想を伝えたりなどして、話の中心に気を付けながら聞く力を身に付ける。自分の思いや考えが明確になるように接続語を上手に使うことで分かりやすい文章を書くように指導していく。 物語文や説明文を学習する時には関連図書を教室に置いて、興味のある本をすぐに手に取れるような学習環境を作っていく。 家庭学習を丁寧に指導して、上手に書いている児童を紹介して、丁寧な学習を価値付けたり、新出漢字の指導の際、正しく書くポイントをおさえたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝のスピーチや帰りの会でスピーチを行うことで話したり聞いたりする時間を毎日多く設定した。継続して行うことで、分かりやすく話す力や、話の中心に気を付けて聞く力を身に付けていく。 物語文や説明文を学習する時には関連図書を教室に置いて、興味のある本をすぐに手に取れるような学習環境を作っていくことで、読書の幅を広げることができた。 漢字学習においては丁寧に学習する姿勢がかなり身に付いた。ノート指導も合わせて行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 新宿区学力定着度調査の結果では、基礎・活用ともに区平均と全国平均よりも上回っていることから、概ね良好と言える。特に、漢字の読み書きと話すこと、聞くことに関する内容は正答率が90%を超えていることから、確実に力が身に付いているといえる。 メモをもとに文章を書くことは、区平均と全国平均は上回っているものの、正答率が54%であることから、分かりやすく文章を書く力を一層身に付けていく必要がある。作文指導を重点的に行う。

	算数	<p>調新宿区学力定着度調査の結果では、基礎的な問題においては、1.4ポイント目標値よりも上回っていた。中でもかけ算や数と計算では、4ポイントと大きく上回った。一方で、ものさしの目盛りの読み取り方や、かさの比べ方・dLがついた乗法の適用は目標値を下回った。</p> <p>学友達の考えを聞いて分かることができると考えている児童が多い反面、自分の考えを説明することは苦手としている児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 目盛りを正しく読んだり正確に直線を引いたりなど、技能面を伸ばす必要がある。 自分の考えを書いたり説明したりする力を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 物差しやdL・Lますの目盛りを正しく読むことや、定規を使って正確に直線を引いたりなどを日常的に指導していく。また、集団検討場面において、次年度も継続して共通点や相違点に着目する発問を続けることで、数学的な見方・考え方の良さに気付けるように指導していく。 図や式を使って自分の考えをまとめる時間を授業展開の中で位置付け、友達に考えを説明することで、分かってもらえたという経験を積んで、自信を付けさせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習の時間を活用して、東京ベシック・ドリル診断テストで間違えた問題の類似問題に取り組み、個別適応な学習を行い、正答率を大幅に上げることができた。 自分の考えを分かりやすく説明することができるように、図や式を使って考えをまとめるようにした。それらについて、話型を使って説明できるように指導した結果、自信をもって説明できる児童が増えた。 	<p>新宿区学力定着度調査の結果では、基礎、活用ともに全国平均よりも上回っているものの区平均よりも下回る結果となった。特に加減の筆算が定着できるように指導する必要がある。課題としていた、正確に作図する力においては、指導を積み重ねていく中で、コンパスや定規の使い方等の技能面を伸ばすことができた。</p>
4	国語	<p>調新宿区学力定着度調査の結果では、基礎的な問題においては、1.3ポイント上回っていた。しかし、段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くこと、内容の中心を明確にし事実を伝える文章を書くこと、内容の中心を明確にし自分の考えを書くこと等は目標値を下回っている。</p> <p>学提出される課題や授業中の様子を見ると、漢字の書き取りやローマ字の読み書きについて定着度が二極化している状況である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや事実の要点を伝える文章を書く力について指導する必要がある。 内容のまとまりを意識して読んだり、自分の書いている内容のまとまりを段落として意識させたりする指導が必要である。 既習の漢字やローマ字の表記について、正確に書き取ったり、読み取ったりする力を伸ばす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語の各単元の中で、単元後半に必ず自分の考えや読み取れた事実を文章で書く時間をつくる。友達の書き方と比較したり教師から助言をしたりする中で、より望ましい書き方が身に付くようにする。 説明文の読解や作文の指導の際に、段落の意味や内容を必ず確認する時間を取る。文章を書いたり読んだりする際に継続して確認することで定着を図る。 端末を用いたタイピング練習や漢字ドリルに繰り返し取り組ませ、自分の定着度に合わせて覚えられるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元後半に文章を書く活動を繰り返すことで、書ける文章の量や文章の書き方が年度当初よりも身に付いてきた。児童によって書く力が二極化してきている部分があるが、ペアやグループで助け合い学習を進めている。 繰り返しの指導によって、文章構成や段落のまとまりを読もうとする姿勢が身に付いてきた。引き続き指導していく。 端末を用いた学習によって、文章の下書きをタイピングで行える子も出てきた。繰り返し取り組むことに意欲が湧くようにクラス内で取り組み状況を共有できるようにしていく。 	<p>新宿区学力定着度調査の結果では、目標値をやや上回っており全体としては概ね良好な状況である。年度当初課題となっていた漢字の読み書きについては、目標値を大きく上回る結果が出ており、既習の漢字を使いこなす力が身に付いてきている。一方、「書くこと」については、今年度も目標値を下回る結果となった。学年としての課題と捉え、次年度以降も年間を通して重点的に指導していく必要がある。タブレット端末を活用した文章作りや日常的な出来事を文章化することを授業の中で取り入れていく。</p>
	算数	<p>調新宿区学力定着度調査の結果では、基礎的な問題においては、2.3ポイント目標値よりも上回っていた。四則計算においては、概ね目標値を超えているが、たし算ひき算の筆算は、目標値を下回った。また、身近にあるものの長さを推察して適切な単位を使うことや円の半径とコンパスの使い方等は目標値を下回った。</p> <p>学大きな数のかけ算の筆算において、筆算過程の繰り上がりのあるたし算・ひき算を間違えることによって正しい答えが出せていない状況が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 繰り上がりと繰り下がりを含む大きな数のたし算とひき算の計算力について指導と習熟をはかる必要がある。 算数の単位や量感を身に付けさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> マス計算や計算問題を授業開始時に毎回行う。制限時間を設けてゲーム化することで、自分が時間の中で何問解けるようになったか、正確に早く解けるようになったかを把握できるようにする。 単位や文章問題の中で、生活場面を想定したり計算結果の見当をつけたりする指導を必ず行う。繰り返すことで、子供の中に「大体いくつにならないとおかしい」「自分の体重はkgを使うから〇〇の重さの単位はgになるはず」といった感覚をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続して指導してきたことで、基礎計算力（計算のスピードや暗算のスキル）の得点が向上してきた。引き続き取り組んでいく。 授業の中で発問したり、児童に問い返したりしたときに気付くことはできている。しかし、生活の中で自然と判別できるほど量感が身に付いているとは言えないので、継続して指導していく必要がある。 	<p>新宿区学力定着度調査の結果では、目標値をやや上回っており全体としては概ね良好な状況である。年度当初課題となっていた計算の力や図形分野についても目標値を上回っており、年間の取り組みによって基礎計算力が向上してきたといえる。一方で、「億や兆、概数」の分野は目標値を下回った。量感を大切にした指導を心掛けてきたが、学年としての引き続き課題となっている。日常の授業の中で量感を問う発問を入れ、量感を養う指導を継続する。単位や文章問題の中で、生活場面を想定したり計算結果の見当をつけたりする指導を行う。</p>
5	国語	<p>調新宿区学力定着度調査の結果では、基礎的な問題や、活用問題においては、目標値より2ポイントほど上回り、概ね良かったが、記述の「書くこと」の問題において、目標値より15.1ポイントと大きく下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 問われている内容をしっかりと理解し、記述する力を身に付けさせる必要がある。 50字、200字と必要な時数で書くことを苦手としており、習熟の必要性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 問いと正対して、自分なりの答えを書くことができるよう、日々の授業で意識をさせる。ノートやタブレットでの解答を随時チェックし児童の理解を細やかに把握していく。 書く力を伸ばすために、書く機会を増やしていく。毎週の課題として課題作文を課していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 意識して、問を投げかけ答えさせる活動をしてきたため、何を答えたらいいか、要点を明確にして答える事ができてきた。引き続き指導していく。 200字程度であれば、すぐに文章を書ける児童が増えてきた。引き続き取り組みをしていく。 	<p>新宿区学力定着度調査の結果では、全体として、正答率が75%をこえ、基礎・活用ともに区平均と全国平均よりも上回っている。特に、読むことの領域では、正答率が8割をこえており、力を付けているといえる。また、昨年度の課題であった書くことについての領域でも、75%を上回っており、着実に力が付いたといえる。ただし言語事項については、大きく下回っており、次年度、改善が必要である。書く力を伸ばすために、書く機会を増やしていく。定期的に課題として課題作文を課していく。</p>

	算数	<p>調新宿区学力定着度調査の結果では、基礎的な問題においては、概ね目標値を上回っている。しかし、角の大きさにおいては目標値から 2.1 ポイント下回っている。児童の解答状況を見ると全体的に二極化している傾向がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの児童の苦手としているところが異なり、学習の理解度も二極化しているので、まずは出来るところと出来ないところを把握していく必要がある。 習熟の時間に繰り返し問題を解き、苦手となる前に、問題を解く必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシック・ドリルを中心に復習を強化する。まずは、診断テストで出来るところと出来ないところを各自が把握していく。 日々の授業の隙間の時間や放課後の時間に、苦手としたところをタブレットのドリルを使って繰り返し問題を解く機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシック・ドリルを中心にした復習を引き続き行うようにする。 小数の計算や作図などクラス全体で苦手が多い単元について、日々の宿題で出したたり、復習の時間を設けたりする。 	<p>新宿区学力定着度調査の結果から、達成率が 80% を超え、力が付いているといえる。特に、「図形」と「変化と関係」の領域では 9 割の正答率で学習が進んでいる様子がよくみられる。しかし観点別にみたときに、思考・判断・表現の部分で、正答率が約 60% であり、次年度、力を入れて学習を進めていく必要があると言える。児童の思考を揺さぶる発問や問い返しを意識的に取り入れていく。</p>
6	国語	<p>調新宿区学力定着度調査の結果では、基礎・活用共に目標値を上回っている。領域別に見ても全て目標値と同じか、上回っている。また、文章を書く問題においては 89.1 ポイントと高い正答率が出ている。漢字を書く力は目標値を上回っているものの 62.5 ポイントと正答率が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を書く力にやや課題が見られる。特に読みの新しい漢字を苦手としている児童が多いため、新出漢字はもちろんだが既習の漢字を復習する時間を設ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 論作文について、昨年度定期的に取り組んできた 200 字作文を今後も取り入れ、高い正答率を保てるようにする。漢字はドリル教材とタブレット端末の教材を合わせて活用することで、色々な手法を用いて自分にあった学習方法で国語科のねらいを達成していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 200 字作文はもちろん、単元ごとに必ず書く活動を取り入れている。書く速度が全体的に早くなったことや原稿用紙の使い方についての知識技能に成長が見られる。漢字の学習は、授業や宿題に加え、自主的に取り組むようになった児童が増え得点も上がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 新宿区の学力定着度調査の結果から、平均正答率が基礎・活用ともに目標値と区の平均を上回っており、力が確実に付いているといえる。特に文章を書く設問と漢字を書く設問では区平均を大きく上回っており、日頃の学習での取り組みの成果といえる。力が確実に付いているので、継続して指導していく。
	算数	<p>調新宿区学力定着度調査の結果では、基礎・活用共に目標値を上回っている。領域別に見ても全て目標値を上回っている。特にデータの活用においては目標値を約 30 ポイント上回っており、確実に力が付いていると言える。基礎学力は 81.8 ポイントと十分身に付いている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業に落ち着いて向かい、友達と対話的に課題解決が行えている。基礎技能も授業と宿題を通して確実に習得することが出来る傾向にある。また、単元末に用意する活用問題にも意欲的に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も引き続き毎時間終末に練習問題を解く時間を設けることで、授業内容を確実に定着させるようにする。また、習熟度別少人数算数の指導においては、習熟度が高いクラスには、単元の終わりに応用問題を解く時間を設けて活用問題の正答率も引き続き保てるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別算数の指導で、各クラスの実態や理解度に合わせた練習問題を用意し、取り組ませている。朝学習の時間には、東京ベーシック・ドリルの結果から個々の課題にあった復習問題に取り組ませることで、問題への正答率を保っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 新宿区学力定着度調査の結果から、平均正答率が基礎・活用ともに目標値と区の平均を上回っており、力が確実に付いているといえる。特に対称な図形と拡大図縮図の図形の問題では正答率は 88%・100% と高い正答率を出しており、普段の授業や朝学習での取り組みの成果といえる。確実に成果が出ているので、今の指導を継続していく。
	音楽	<p>学昨年度はコロナ禍における音楽活動の制限があり、リコーダーや鍵盤ハーモニカを使用しての学習が十分に組み立てていない状況である。</p> <p>学友達と関わりながら楽しく・進んで学習できる児童が多い。その反面、協働場面での自分の思いや意図を適切な音楽の言葉や表現として伝えることには苦手意識を持っている児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 吹奏楽器だけでなく、オルガンやアコーディオン、木琴など音楽室にある楽器を知り、楽器の特徴を生かした奏法や技能を習得する。 楽しい活動の中になぜその楽器を選んだのか、パートの役割や曲の特徴、音の響き、旋律の特徴などの関わりを常に意識しながら活動に取り組むことができるように指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 吹奏楽器以外の音楽室にある楽器を十分に活用するために楽器の性質に合わせて既存の楽譜を書き替えたり、付け加えたりして工夫した学習活動を設定する。 音楽の要素や特徴から表現したい思いを言葉や音で伝え合う場面の設定を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 2～6 年生はクラスでできる合奏に挑戦し、合わせる楽しさやいろんな楽器の奏法を学んでいるところである。 タブレット端末を使用し、自分の演奏を録画し振り返りをしたり、鑑賞の意見交換や感想の交流をしたりして、自分の思いを言葉で伝え合う場面が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の制限のある活動の中で鍵盤ハーモニカやリコーダー以外の旋律楽器を活用した器楽合奏に毎学期取り組んだ。協働的な活動の中で、主体的に音楽を学習することができた。 タブレット端末を使用して、作曲アプリを活用して音楽づくりを行った。この結果、音楽での表現の振り返りや友達との意見交換に苦手意識を感じている児童が積極的に活動することができ、音楽の特徴から表現したい思いを音で伝えていく力が付いた。
	図工	<p>学継続的に振り返りの時間を設定することで、学年が進むにつれて基礎学力が向上してきている。また新しい単元に入る時も不安や緊張がなく、安心して新たな課題に取り組む姿勢も身についてきている。</p> <p>学低学年から作品を見合う習慣づけによって、学年が進級するにつれて観察力や洞察力、協調性も身に付いてきている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な知識、技能を身に付けた上での表現力を向上させていくように指導する必要がある。 お互いの作品を鑑賞する時間を大切にしながら、学び合う意識をもたせることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りの時間を継続して設定することで、新たな課題に取り組む際に、身に付いた知識技能を生かして表現力を向上させていく。 作品鑑賞の時間を継続的に大切にして、今後も学び合う意識を高め、観察力や洞察力、協調性を身に付けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい単元の最初、または、取り扱う道具や表現が変わるたびに、過去の学習を振り返って積み重ね身に付けていくべき基礎学力を養うための指導を行う（確認、振り返り）。 時間に余裕がある時は、積極的にお互いの作品を見合う時間を確保していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に学習の振り返りの時間を設定することで、学年が進むにつれて自分のイメージをしっかり持って表現する等の基礎学力が向上してきている。また新しい単元に入る時も、安心して新たな課題に取り組む姿勢も身に付いてきている。 低学年から作品を見合う習慣付けを行うことにより、学年が進級するにつれて観察力や洞察力、協調性が身に付いてきている。

特支	<p>学 自分の考えを相手に表現する力がまだ十分に身に付いていない状況がある。</p> <p>学 小集団指導を通して、対人関係などのソーシャルスキルトレーニング指導を行った。小集団の中でできるようになったことでも、学級において得た力やスキルを発揮できるようにするためには、継続的な指導が必要である。</p> <p>学 読み書き計算についてそれぞれの児童に合わせた学習に取り組む必要がある。</p> <p>学 一定時間集中して活動に取り組むことに課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識をもちながら活動に参加できるように指導していく。 ・幅広く語彙を獲得する力を伸ばしていく。 ・持続して取り組む力を伸ばしていく。 ・児童一人一人に適した学び方が身に付くように指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを小集団学習などの活動の中で生かせるような機会を設定する。 ・児童に合った学習環境や指導方法を教員間で共有し、各人にとって個別最適なスモールステップでの学習を行う。 ・個に応じた言葉のプログラムを活用し、語彙を増やせるようにする。 ・身体の使い方や手、指の巧緻性を高める運動を重視する。 ・課題の背景となる要因を探り、指導の計画を立てて実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小集団学習では、個別学習で学んだことを生かせるような学習活動を設定した。回数を重ねる毎に成果が見られている。 ・児童の特性に応じたよりよい学習内容を設定するために、日々教員間の情報交換を行っている。 ・「MIM」やタブレットの活用など、本人に応じた学習方法で課題に取り組むことで、苦手な学習にも意欲的に取り組む児童が増えてきている。 ・粗大運動や微細運動を積極的に取り入れたことにより、体の動きがよくなるだけでなく、集中力の高まりを感じられるようになってきている。 ・学習の困難さの原因を丁寧にアセスメントするようにし、個に応じた課題の設定に力を入れた。少し頑張ればできる課題を設定することにより、学習意欲の向上にも繋げることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチ活動では、「いつ、どこで、だれが、どうした、気持ち」を事前にメモすることで、大事な情報が抜けることなく話を伝えられるようになった。 ・小集団活動を通して、コミュニケーション、対人関係の力が高まってきている。運動での譲り合い、協力、教え合いなど良い部分が見えるようになった。 ・MIIM（音韻、音節のアセスメント）や特別支援教育用の漢字教材などを活用することで、楽しく学習に取り組もうとする児童が増えた。書くことに抵抗感がある児童もいるため、タブレット端末の活用と合わせて書くことへの意欲を少しずつ高めていきたい。 ・姿勢保持や手指の巧緻性向上のため、感覚統合を取り入れた活動に取り組んできた。トランポリンやスクーターボードに繰り返し取り組むことで、集中力の向上、一定時間の姿勢保持など成果がみられた。
----	--	--	--	---	--

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況